

先輩監督官からのメッセージ



北海道労働局
札幌中央労働基準監督署
渡邊 千紘
令和元年度任官（A監）

栃木労働局採用



Q：監督官になったきっかけは？

- 大学時代、法律を学んでいましたが、自身がアルバイトをしていたことや、当時ニュースで「過労死・過労自殺」という言葉を耳にすることが多く、法律の中で特に日常生活とリンクして学べる「労働法」に興味を惹かれました。
- 専攻した労働法ゼミナールで「労働基準監督官」という仕事を知り、労働者が安心して働くことのできる社会の実現のために働くという仕事内容に魅力を感じ志望しました。

Q：監督官になって良かったことは？

- 自分が行った監督指導が、会社の労働環境の見直しの1つのきっかけとなり、事業主の方が労務管理の改善に真摯に取り組んでくださったり、労使間の問題を解決した際に、労使双方から感謝の言葉をいただいた際にはやりがいを感じます。
- また、様々な立場や業種の方と関わる機会が多く、幅広い知識や経験が得られる点も監督官の仕事の魅力だと思います。

Q：任官してから苦労したことは？ また、それを克服した方法は？

- 監督官の仕事では、賃金や労働時間だけでなく、工場に設置された機械や建設現場の足場なども指導の対象です。
- 普段慣れ親しみのない機械や足場に最初は何も分からず戸惑いましたが、複数の現場に赴き、先輩監督官からOJTを受けながら実践を積むことで、見るべきポイントを徐々に理解していくことができました。今では、工場や建設現場の指導も戸惑うことなく積極的に行うことができます。

監督官を目指す方へ！

- 労働基準監督官の仕事は、自身の指導により、これまでに見たことのない現場、またその企業が改善していく姿を見ることができ、非常にやりがいのある仕事です。
- 研修制度も充実しており、大学時代の専攻を問わず、活躍できる職場だと思います。
- また、監督署における司法捜査には、女性監督官でなければ実施できないこともあるなど、性別に関係なく、活躍の場が用意されています。
- 監督官という職業に興味を持ったのなら、将来の選択肢の1つにしていただければ幸いです。一緒に働ける日が来ることを楽しみにしております。